

平成23年度 学校自己評価システムシート（山村学園高等学校）

目指す学校像	校訓「質実・英知・敬愛」を踏まえ、人格の完成を図るとともに、現代社会にふさわしい洗練された知性と、豊かな感性を備えた人材を育成する。
--------	--

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 学習意欲を向上させ、自主自立の精神を養いより豊かな人間性を身につけさせる指導を行う。特に自学自習の習慣化については個々の状況を踏まえ定着を図る。 生徒一人一人の能力や適性を生かした進路指導の実現を図るため、生徒の進路意識を更に深化させる。一年次から大学一般受験を念頭に、一段高い進路実現に結びつける指導を行う。そのため、進路指導部と各学年との連携を密にする。 授業・HR活動・学校行事・部活動・ゼミ・資格取得など、本校教育全般にわたり、学力及び体力の向上を図り、きめ細やかな指導により、生徒に達成感（成就感）を与える教育を行う。特に「7つの習慣J」については組織的に取り組む。皆勤・精勤を奨励する。 生徒の心情をよく理解し、その実情を踏まえ、確かな常識を身につけさせるような指導を行う。非社会的・反社会的行動の未然防止に努めるとともに、特に、あいさつの励行をはじめとして、本校生徒指導の根幹である「しつけ教育」について意を注ぎ、暴力やいじめは絶対に許さない姿勢で臨む。 生命を尊び、他を思いやる心・感動する心をもち、コミュニケーション能力・協調性など、たくましく生きるための力を身につけさせる指導を行う。全職員が教育相談技術を向上させてこれらの指導に当たるとともに、カウンセラーを配置し、より積極的な相談体制を確立する。 保護者会・三者面談・授業公開など、あらゆる機会をとらえて本校の教育方針や指導の重点目標を話題として取り上げ、保護者等と積極的な連携を図る。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	第三者委員	5名
学校関係者		5名
事務局(教職員)		4名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
23 年 度 目 標					23 年 度 評 価 (3 月 31 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	・7つの習慣Jの授業の充実。	・生徒の自主性と思いやりの心の育成	・「QU」と「ココカラ検査」を利用したHR経営と「7つの習慣J」から自主性のと心の教育のさらなる充実。	・人間性豊かで他を思いやる生徒が増えたか。 ・自主的に行事に参加する生徒が増えたか。	・体育祭や文化祭などの学校行事などを通して、また、「ココカラ検査」の結果からも、協調性や思いやりのある生徒が多くなった。 ・行事へ有志としての参加生徒数が増えた。	B	「7つの習慣J」とHR運営の連携を図り、今年度以上に心の教育の充実を図る。また、保護者にもよく理解してもらえるような催しの設定。
2	・いじめの撲滅と不登校生徒の減少を図る。	・生徒の意見や悩みへの適切な対応。	・カウンセリングや個別面談の充実。	・不登校生徒の人数やカウンセリングを受けている人数とその理由。	・専門のカウンセラーにおけるカウンセリングや、保護者との密接な連絡により、状況の把握がより明確になり効果が上がっている。その結果、不登校による転学数者が減少した。	A	今年度の取組を継続し、カウンセラー、教員、保護者との綿密な連絡と理解を図る。
3	・生徒個々の能力や適性を生かした進路指導の実現を図る。	・生徒の進路指導の達成。 ・学力の向上と自学自習。	・進路ガイダンス、大学出張講義、進路相談会等の充実。 ・受験対策講座・長期休業中のゼミの関連性を深め、生徒個々の取り組みと、家庭学習の習慣化を図る。 ・補習の充実	・現役進学率 92%とし、内大学進学率は 80%とする。 ・受験対策講座等の出席率 100%、与えられた家庭学習時間の実行率 50%の達成。	・現役進学率 95%、内大学進学率 76%であった。GMARCHをはじめ、昨年以上の成果をあげた。 ・受験対策講座等の出席率 9割を超えた。	A	・現役進学率 96%とし、内大学進学率は 80%とするための指導を検討。授業と受験対策講座の連携の充実。家庭学習時間の大切さをどう生徒に理解させるか。
4	・開かれた学校を目指し、学校からの情報発信を推進する。	・学校HPの活用、学校公開、学校説明会の実施。 ・災害時の対応 ・緊急メールの活用。	・学校の様子をHPでタイムリーに公開する。 ・10月に学校公開を行う。 ・防災訓練を行う。	・HPの見易さと、情報の即時公開性。 ・緊急連絡のメール配信。 ・学校公開への保護者の参加人数。 ・防災マニュアルの作成。	・HPに関してはおおむね良好。 ・緊急メールの配信が個々の生徒、保護者へ行えるようになった。 ・学校公開に保護者対象の講座を設けた結果、昨年よりも参加数が増加。 ・防災訓練の実施。	A	HPやメール配信の更なる充実。開かれた学校として行事はもとより、地域との密接な関係作り。防災マニュアルの見直しとHPの活用。

実施日	平成 24年 3月 31日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・7つの習慣の授業があるので入学を決めた保護者もいる。 ・良い授業だと思うので、2年生・3年生でも行って欲しい。 ・情報過多の社会の中で、自分を見失うことなく生活できる力を身につけさせる内容で大変良いと思う ・ある程度充実した内容で安心した。 ・早期発見のためのチェックリストのようなものを教員に示しておく必要がある。 ・保護者もカウンセリングが受けられることを広く伝えて欲しい。 ・教員によって指導にややバラつきがあつて生徒が混乱することは避けたい。進路指導部を中心に生徒・保護者が混乱することのないよう指導や情報提供をお願いしたい。 ・各コースにあった合格状況が出ていることは好ましいことである。 ・震災時の対応マニュアルの更なる充実と訓練をお願いするとともに、防災グッズの対応も考えて欲しい。 ・緊急メールについては、全体が集まるときに、その必要性を説明していくべきだ。